

# 日本生体医工学会 2022 年度第 5 回理事会議事録案

日時：令和 5 年 3 月 29 日(水) 14:00～17:00

会場：ME 試験事務局・会議室（津久井 2 1 ビル 3 F）

## <出席者>

理事長： 黒田 知宏

副理事長： 守本 祐司、原口 亮

理事： 木村 裕一、中島 章夫、山家 智之（兼 東北支部長）、横澤 宏一

## <Web 出席者>

理事： 芦原 貴司、川田 徹、坂田 泰史、佐久間 一郎（兼 関東支部長）、杉町 勝、  
成瀬 恵治、中島 一樹、平田 雅之、堀 純也、松田 哲也、松村 泰志、松本 健郎

監事： 阿部 裕輔、椎名 毅

## <オブザーバー・出席者>

幹事： 坪子 侑佑、木村 雄亮

事務局長： 磯山 隆

オブザーバー： 大橋 俊朗（北海道支部長）、鍵山 善之（甲信越支部長）、  
渡邊 英一（東海支部長）、杉本 直三（関西支部長）、  
鈴木 孝司（臨床研究法 WG 長）、堀 潤一（第 61 回大会実行委員長）、  
原 武史（第 62 回大会幹事）、前田 義信（生体医工学シンポジウム 2023）、  
森 健策（第 62 回大会 大会長）、家入 里志（九州支部長）

## <欠席者>

理事： 大城 理、村垣 善浩

監事： 望月 修一

オブザーバー： 嶋津 秀昭（北陸支部長）、荒船 龍彦（若手研究者活動 WG 長）、  
坂本 信（第 61 回大会長）、石原 謙（中国・四国支部長）、  
福岡 豊（生体医工学編集委員長）、  
王 鋼（ABE 編集委員長）、株式会社 PCO(上田)

## <理事会議題>

### 0. 理事会の成立 黒田理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 18 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

### 1. 第 62 回日本生体医工学会大会の進捗報告【報告 O.1】 森 第 62 回大会 大会長

第 62 回日本生体医工学会大会の進捗状況について報告された。2023 年 3 月 28 日時点で、一般演題 288 件、企画セッション 42 件、特別講演 2 件の登録があったことが報告された。収入については、名古屋市 国内会議助成金への応募を行い、それにより 700,000 円の助成金を確保する予定である旨が報告された。寄付金については、現在 230,000 円の収入を得ている。広告掲載、及び企業展示による収入は、現在 2,145,000 円であり、は引き続き企業を募集する旨が報告された。現時点で会場内企業展示は 7 件が確定しており、比較的賑やかな展示会場となる旨が報告された。支出については、学生アルバイトなどを活用しつつできる限り抑える方向で検討している旨が報告された。ただし、それでもまだ 1,000,000 円程度の赤字が発生する見込みであるため、理事の先生方には協賛や展示企業の推薦を行っていただきたい旨が報告された。プログラムについても、セッションの時間割については大部分が決定している旨が報告された。懇親会については、コロナ禍の現状を踏まえ、本年度も実施しない予定である旨が報告された。また、従来の学会賞に加えて、本大会独自の賞について設定を想定している旨が報告された。

本件について、特別講演の先生方の謝金について、交通費は含まれるのか質問され、それは含まれていない旨が回答された。また、マスクの着用などに関するルールは定めるのか質問され、国、及び愛知県や名古屋市の指針に従うが、基本的に参加者の判断とする予定である旨が回答された。また、大会独自の賞については事前に理事会承認が必要である旨が報告され、理事会への申請方法を、事務局より森大会長、及び大会運営担当の PCO の方に連絡していただくこととした。賞について、具体的な内容が決まり次第、理事会に申請し、メール審議にて承認を得ることとした。また本賞は助成金由来のものであり、若手の表彰という用途制限の下、今大会限りで実施する予定である旨が報告された。また、ランチョンセミナーについても、現状のコロナ禍に鑑み、本大会は実施しない方針である旨が報告された。

## 2. 若手登用のための定款変更について【審議 U.1】 杉町理事

若手研究者の代議員、および理事への登用を可能とするための方策として、定款の変更を必要とする部分について調査した旨が報告された。現状、日本生体医工学会に所属する若手会員は、準会員の方が多い。そのため、若手の意見を取り入れるために、準会員にも投票権を与える、あるいは準会員制度そのものを見直し、若手の方にも正会員になっていただく（年会費は現行の準会員会費相当とする）など、定款の改訂を検討したい旨が報告された。また理事の人数は現状 17-21 名だが、若手理事の登用のために、この人数を増やすべきか検討したい旨も報告された。

本件について、準会員の位置づけについて質問され、会員種別規定においては、大学院生、大学学部およびそれ以下の学生、短大・高校卒業者ならびに病院、研究所などの技師等の方々と定義され、選挙権を有さない学会員である旨が回答された。また、若手のほとんどが準会員である現状は健全なのか質問され、本学会には学生会員が存在せず、学生は準会員で入ることが多く、またそのため、学生の身分が無くなっても準会員のままでいられる旨が回答された。また、特にこれから、臨床工学技士の会員が増えることが予想されることから、そのためにも準会員制度は残すべきである旨が報告された。また、準会員で居続けることに対しては、何らかの制限を設けるべきではないかという意見が出された。現状の準会員について、入会会員種別規定に記載の、

準会員の記載に適応されているかどうかの確認が必要である旨が報告された。また、会員種別の変更については議論が必要であり改定には時間を要するため、理事会に中堅、若手の代表の方に参加していただくための席を設け、そこで意見を出していただく形にしてはどうか、意見が出された。さらに、定款には準会員に関する規定が存在しないため、会員種別規定のみの変更であれば、理事会での承認で完結するのではないかという意見が出された。

以上より、まずは会員種別規定、及び入会金・会費規定に関し、改定を行う事で、全会一致で承認された。

続いて、若手理事登用のための手法の検討について、何歳以下の理事、あるいは監事が何人以上必要である等、理事や代議員の構成に関する規定を別途作成し、次回以降の理事会において、規定案を提出することとした。

### 3. 第4回理事会議事録の承認【審議 A.1】 事務局

2022年度第4回理事会議事録案について、各理事に内容をご確認いただき、修正希望があれば3月中に理事長、幹事と事務局までご連絡いただくこととし、その修正をもって議事録として承認することとした。

### 4. CE コーポレーションとの業務委託契約書・覚書の締結更新について【審議 H.1】

#### 中島（章）理事

ME 技術教育委員会における、株式会社 CE コーポレーションとの業務委託契約の更新内容案について報告された。これまでとの契約内容からの大きな変更点として、株式会社 CE コーポレーションの代表取締役社長が岡村 祐典様に交代した点、及び近年の ME 試験の受験者人数を考慮して1種 ME 試験講習会委託費、1種 ME 試験受託費、2種 ME 試験受託費、及び水道光熱費の見直しを行った点、及び HP 運営管理費が追加された点が報告された。

本件について、2種試験の講習会は存在しないのか質問され、現在は行っていない旨が回答された。以上より、文中表現の細かな修正を行った上で、全会一致で承認することとした。

### 5. 2022年度臨床 ME 専門認定士新規・更新申請者について【審議 I】 中島（章）

#### 理事

2022年度臨床 ME 専門認定士新規・更新申請者案について報告された。書類不備等については事務局で確認済みである。

本件について、所属の記載が無い人物はどのような方か質問され、退官されている方ではないかという旨が回答された。また、更新申請について、現在は5年に1回の更新が必要となっているが、一定回数以上の更新が行われた場合に、以降の更新の必要が無いように変更するべきでは

ないかという意見が出された。現在、更新者離れが進んでおり、上記のような対応を行えば、そこを目指して受験する方が増加し、更新離れを防止できるのではないかと、という考えに基づいたものである。これに対し、更新は ME 試験の品質、及びその方のスキルを保証するためのものであり、年齢などに関係なく必ず行うべきである旨が回答された。ただし、受験料を安くする、必要な点数を低く設定する、などの対策は行うべきであるとした。

以上より、新規・更新申請者の認定について、全会一致で承認され、更新申請については、今回の意見を基に、次回以降に理事会に修正案として提出されることとした。

## 6. サマースクール 2022 分のインセンティブ運用申請【審議 S.1】 荒船 若手研究者活動 WG 長 (代理：坪子幹事)

者活動 WG 長 (代理：坪子幹事)

サマースクール 2022 年における収益金のインセンティブ運用について報告された。申請金額は 188,215 円であり、その用途は、生体医工学サマースクール 2023 の準備金 (158,215 円)、及び講演会事業主催・運営費用 (30,000 円) である。以上の活動を通じて若手研究者活動ワーキンググループ、及び日本生体医工学会全体の活性化を図る旨が報告された。

上記について、全会一致で承認された。

## 7. 2023 年度サマースクール予算案 (2 種)【審議 S.2】 荒船 若手研究者活動 WG 長 (代理：坪子幹事)

長 (代理：坪子幹事)

2023 年度のサマースクール予算案について報告された。本年度は現地あるいはハイブリッドで開催する予定である。収入としては、参加費 (約 27 名程度を想定)、及び議題 S.1 で申請されたインセンティブを含めた補助金を併せて 1,096,215 円を想定し、支出は会場費、講師謝金、旅費、プロトタイピング用の電子機器類、非学会学生の学会入会支援、及び雑費で、1,096,215 円を想定している。

本件について、学会補助金は事前の振込ができないため、事務局に請求書を送付していただく、あるいは立替払いしていただく必要がある旨が報告された。また、非学会学生への学会入会の支援について、非会員学生が会場で会員となった場合 (理事会承認が必要なため、入会手続き中という形をとる) には、参加費と入会金の差額 7,000 円を後日返金処理する形式を取るべきである旨が指摘された。その場合、オンライン参加者の入会意思の確認が取り辛く、サマースクール後に返金依頼が届く可能性があるため、一定の期限を設けた方がよい旨が報告された。

以上より、予算案について、全会一致で承認された。

## 8. 生体医工学サマースクール 2022\_最終収支報告【報告 S.3】 荒船 若手研究者活動 WG 長 (代理：坪子幹事)

動 WG 長 (代理：坪子幹事)

生体医工学サマースクール 2022 の最終収支について報告された。本年度もオンラインで開催し、20名の参加者が得られた。4名の講師を招聘したが、そのうち1名は本学会会員であったため謝金の対象外であったことが報告された。オンライン開催としたため、事前にマイコンキットを参加者に送付する必要があったが、参加者はサマースクール前にマイコンに触れることができたため、運営がスムーズに運んだ旨が報告された。最終的な収支は376,429円の黒字となったことが報告された。

本件について、支出項目中の「準会員補助金」は、支出内準会員補助金の金額を削除し、収入内記載の参加費と合算して、修正した上で承認することとした。

## 9. 生体医工学 web 辞典【報告 J.1】 平田理事

生体医工学 web 辞典第2分冊の編集状況について報告された。3月26日時点において、第2分冊に掲載される116用語の編集、及びweb上への公開が完了したことが報告された。一部の用語に関しては今回執筆・編集が困難と判断し、用語リストから削除された。今後は、4月18日までにPDF化するとともに、目次・編集者および著者リストの作成を完了し、5月末に生体医工学誌増刊号としてJ-Stage上での発刊を目指すことが報告された。その際は、第1分冊を合わせて合計243用語が掲載予定である旨が報告された。

本件について、第2分冊34行目「承認審査・医療機器の」のタイトルの書き方は誤りではないのか質問され、書き方については一定の決まりがあり、このような書き方で間違っていない旨が回答された。また、作りかけのページが存在している旨が報告された。この原因として、関連項目内に削除すべき項目が残ってしまっていたことが報告され、最終的には完全に削除する旨が回答された。また、今回削除することとした項目についても可能な限り完成させていただきたく、その場合は、次回の増刊号の改訂版作成際に掲載する旨が報告された。

## 10. 齋藤賞について【審議 K】 松村理事

齋藤賞の設立に向けた進捗状況について報告された。

神保先生から齋藤先生のご家族にご連絡いただき、齋藤先生のご意向が「生体医工学分野のこれからを担う方々の励みとなる制度」とすることであると確認できた。

このことを踏まえ、以下の案が提示された。

- 大学院博士課程、博士課程修了後大学等の研究機関に所属し助教等のテニユアポジションを取得するまでの研究者で、生体医工学領域の研究に従事しており、将来、大学等の研究機関で生体医工学領域の研究者として活躍することを目指している人を対象とする。
- 審査は、現在実施または計画している研究の概要（最終的に目指しているゴール、目下の研究の目的、方法、期待する結果、次に行う予定の研究計画など）を所定のフォームに記載して提出してもらう。
- 齋藤賞の選奨委員会を組織し、主に、真摯に生体医工学領域の研究に取り組んでおり、将来良い研究者になる可能性の高い申請者を数名選出する。

- 賞金は100万円とする（50万円以上では源泉徴収が必要。50万円 x 2回も考えられる）。
- 受賞者は、日本生体医工学会の会員になり、受賞後5年以内に生体医工学会で研究成果を発表しなければならない。

本件について、賞金が大きいため、選奨における審査の公平性を担保するための事務経費が必要になると考えられるが、事務経費としての支出はお認めいただけるかどうかについて意見があった。これに対して、必要に応じて適切に記録を残し、ご報告しながら運用していくべきであるとの回答がなされた。

また、研究費としてしまうと、所属機関に配分され個人の生活費としては使用ができなくなってしまうため、個人の支援を目的とするのであれば奨学金として設定すべきであると意見された。さらに、博士課程修了者のみでなく、博士課程進学を希望する大学院生も受賞の対象とすべきとの意見も出された。

上記を踏まえて、奨学金方式とすることと、取り崩し方式とすることについては概ねの合意を得たこととして、賞金方式とすべきか、奨学金方式とすることができるかどうかについて、中村財務担当理事より公認会計士の馬目先生にご確認いただくこととした。

また、博士課程進学者を対象とする方針として詳細の検討を継続し、総会後の理事会にて情報を共有することとした。

## 11. 新技術開発賞選定委員会の最終報告【審議 K】 芦原理事

新技術開発賞の選定結果について報告された。

2件の推薦があり、昨年10月の理事会において承認され改訂した新技術開発賞の選定手続き、及び申請様式に基づいて選定が行われ、新様式でスムーズに選定プロセスを進めることができたため、次年度以降も本様式を採用したい旨が報告された。

M系委員9名、E系委員10名から、独創性5点満点、実用化・商品化5点満点の計10点満点で採点を行い、M系、E系それぞれ幹事の先生より総評をいただくとともに合計総合点から、

「血管内治療用医療デバイス評価システム BIS-ORTA（ビスオルタ）」が新技術開発賞として選定された。

今回、選定から事務局への報告と、その際に必要な報告情報が定まっておらず情報共有が遅延したことから、事務局や理事会への報告手順を定めてまとめるべきであるとした。

本件について、新技術開発賞の選定結果について全会一致で承認された。また、選定プロセスにおける事務局との連携については、理事長と事務局とで相談することとした。

さらに、今後の各賞の選定プロセスとして、阿部賞は、坂本委員長からの依頼に基づき本日事務局より4月10日を締切として推薦依頼を発信した。荻野賞についても、事務局より至急選奨委員に回覧し、5月の名古屋大会での総会に間に合うよう選定を進めることとして、4月第4週にはメール審議にて承認することとした。

## 12. 役員選挙結果のご報告【報告 L】 成瀬理事（代理：事務局）

2023年2月に開催された2023・2024年度理事・監事の役員選挙の結果について報告された。2月15日に投票を締め切り、2月28日までに開票し、代議員数134名のうち返送数83件(61.9%)であり、理事候補者、監事候補者を決定した旨が報告された。

理事・監事候補推薦規程に基づき、M系E系から得票順に各3名を選出し、その後M系E系を問わず得票順で3名選出し、同票の場合は会員歴が長い順に選出したことが報告された。投票結果と規程に基づき、9名の理事候補者、2名の監事候補者が選出され、全会一致で承認された。また理事・監事候補推薦規程第8条4に基づき、理事会があと1名理事候補者を推薦できることが報告され、次回以降検討することとなった。

### 13. 第63回日本生体医工学会大会の開催について【審議O.2】 木村理事

第63回大会について、鹿児島大学小児外科の家入里志先生を大会長としてかごしま県民交流センターにて2024年5月23日(木)～25日(土)で開催予定である旨が報告された。

収支予算案については新潟大会の規模に基づき作成しており、本部助成金3,000,000円を想定して黒字を見込んでいるため、予算案について承認をいただきたい旨が報告された。大会運営については、新潟大会、名古屋大会での実績のある株式会社PCOを本年も利用することとして、演題登録など既存のシステムを使用するための費用も計上している。

また、今後、大会あり方委員会が理事会の窓口として副大会長もしくは組織委員会に参画することとして、鹿児島大会では大会あり方委員会委員長の木村理事が担当することが報告された。

本件について、全会一致で承認された。

次に、2023年9月開催予定の生体医工学シンポジウム2023の進捗状況について報告された。今週末にHPの公開とCall for Paperを発出が行われる。また、これからプログラムの編成を行うため、例年開催している教育講演に関して、編集、研究倫理などといったテーマの要望があれば木村理事宛にご連絡いただきたい旨が依頼された。

### 14. 2022年度専門別研究会評価委員会報告【報告/審議R.1】 芦原理事

専門別研究会規程第15条ホに基づき、専門別研究会評価委員会を設置し、前年度事業報告・決算報告・次年度の事業計画・予算計画に基づく評価を実施した旨が報告された。評価委員は芦原貴司 学術担当理事、山家智之 総務担当理事、中島一樹 財務担当理事、及び原口亮 副理事長である。予算配分について、2022年度に限っては2022年9月5日の理事会で承認されたコロナ特例措置に基づき、2021年度実績と2022年度計画の平均回数に基づき算定したことが報告された。なお、次年度以降は従来通りに戻す予定である旨が報告された。本件について、特例措置での実施の結果、2研究会で補助金上限の100,000円を超えてしまった旨が報告された。こちらについて、回収はしない予定であり、評価結果自体は問題ないことが報告された。また、研究会について、3件の新設、9件の継続、9件の再設置、及び1件の終了の申請があり、いずれも内容に問題が無く、承認されたことが報告された。

また、研究会の再設置の申請書について、研究会長の任期は最大6年であるが、これまでの様

式は会長就任年度の記載欄が存在せず、判別が困難であった。さらに新設申請書、再設置申請書、及び次年度事業計画書は、多くの部分が重複し、申請者の混乱を招く内容であった。よって、書式を統合し、会長就任年度の記載欄などを追記した。さらに、これまで各申請書の提出締切がばらばらであったため、全ての申請書の提出期限を1月末と定めた申請書の改定案が提出され、承認依頼が出された。

本件について、研究会の新設、更新、終了、及び予算配分について、全会一致で承認された。また、申請書の改訂版については改訂箇所が多いため、理事会終了後1週間以内に確認いただき、指摘事項がなければ承認することとした。

## 15. 学会の価値向上を目指す取り組みについて【審議 W.1】 原口副理事

学会の価値向上を目指す取り組みについて、進捗が報告された。

まず、取り組みの1つとして、生体医工学ができる大学のリストを学会 Web ページに載せる方法の検討を行っている。5名の先生方より研究室の情報をいただき、生体医工学の研究ができる研究室リストの作成を行った旨が報告された。また、HP 作成のために著作権処理された画像を購入する必要がある、そのための予算申請を行った旨が報告された。

2つ目の取り組みとして、学会の価値を高めるイベントの検討を行っている。こちらについて、名古屋大会での企画セッションを実施することが報告された。開催内容は以下の通りである。

ヘルスケア・医療機器業界の業界・企業研究セッション 生体医工学が生きる業界を学ぼう！

- ・医機なびによる業界紹介 20分
- ・維持会員各社による5分プレゼン
- ・会場にて参加各社と参加学生との情報交換 60分

本件について、会員メーリングリストを活用して宣伝すべきとの意見がされた。

## 16. 会員入退会報告【審議 X】 事務局

第5回理事会における入退会審査について、入会希望が正会員9名、準会員9名、退会希望が正会員10名、準会員5名である旨が報告された。

入会希望者のうち1名は、推薦者の記載がなかったが略歴書の提出があったため、受理した。また、うち2名は推薦者の記載および略歴書の提出がなかったため、事務局より改めて略歴書の提出を依頼し、次回理事会にて再度審査することとした。

上記より、計16名の入会、退会希望の15名について全会一致で承認された。

## 17. 日本生体医工学会へ MI 研から共催依頼【審議 Z.2】 事務局

第62回日本生体医工学会において、電子情報通信学会 医用画像研究会より、共催の依頼が出



されたことが報告された。本件について、全会一致で承認された。

## 18. その他

各支部からの選奨申請、支部長の交代、及び事業計画が提出されている。これらについて、理事会終了後、1 週間以内に確認していただき、指摘事項があれば対応・修正をもって承認することとした。

以上

議事録署名人

議事録署名人

議事録署名人